



令和4年9月2日

蒲刈中学校だより

発行：呉市立蒲刈中学校
文責：校長 柿林 浩彦

第21号

郷土の自然体験

～サップに乗って豊かな海を満喫しました～

8月29日（月）、蒲刈B&G海洋センターによるサップ体験などの「郷土の自然体験」を実施しました。自然体験の指導員の皆様には、海洋ごみ専用の「拾い箱」の取組や夏休み前の事故防止の指導に引き続き、大変お世話になりました。

当日は、天気は良く波も穏やかで、海での自然体験には暑くも寒くもなく海水温も高い、まさに「サップ日和」となりました。

まずは、指導員の皆様から、バディ（二人一組をつくり、互いに相手の安全を確かめさせる方法）のやり方やバディをやることの意味を説明していただき、掛け声を出しながら安全確認をしました。始めは声が出なかったため何回もやり直しながら、バディの大切さを体感し、海では自分の安全は自分で守らなければならない意識をもたせました。

早速、4艇のメガサップに乗って沖へ出ました。メガサップの上ではバランスが取りにくく落ちそうになりながらも、指導員の皆様の「いち！」という大きな掛け声の後、生徒たちは「オーエス！」と返して漕いでいきました。声を合わせてパドルを漕ぐことが大切で、次第に大きな声が出始めました。目的地の「ゾウ岩」に到着すると、ゾウが水浴びをしているような岩が見ることができ、生徒たちは大興奮でした。ゾウを正面から見るような「ゾウ岩」ですが、満潮時には、鼻の下をシングルサップで通れるそうです。

次は、洞窟の入り口のような出で立ちをしているパワースポットへ行きました。このパワースポットは、上から風が吹き抜けるため夏の暑い時期でもここだけは涼しいそうです。また、時間に余裕ができたため、メガサップレースをしました。男子チームは15秒のハンデを設け、結果は女子→女子→男子→男子となりましたが大変盛り上がりました。

メガサップ体験の後は、サップとカヤックの自由体験を行いました。生徒たちは自分が乗りたいものを選んで乗りました。乗り方を教えてもらいましたが、体験しながら乗り方を覚えているようでした。転覆したり、自らダイビングしたりする光景も見られましたが、時間一杯自分なりに楽しんでいました。

すべての体験後、「自分が遊んだ海をきれいにして帰る」ということから、全員で砂浜の海のゴミを拾いました。プラスチックのゴミが意外に沢山あったことに驚きながら、拾ったごみは生徒たちが描いた絵で飾られた海洋ごみ専用の「拾い箱」に入れました。

最後に、指導員の皆様から「地元である蒲刈の海に誇りを持ってほしい。」とのお話があり、心に響くとともに、美しい蒲刈の海を大切にしたいという思いが強くなりました。

とても楽しい自然体験であり、郷土の誇りである豊かな海の自然を体感できた充実した1日となりました。指導員の皆様、本当にありがとうございました。また、来年もよろしくお願いたします。

